





## クロマックス®プロ ベースコート




### ベースコート塗装後の修正

#### 補修要領

##### ベースコート乾燥後の修正 / ゴミ・ブツの除去

	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 十分にベースコートを乾燥させた後、P1500以上のドライサンディングで丁寧にゴミ・ブツを除去する。 *ペーパーのエッジ部等で深いキズが入らないよう注意。</li> <li>- P3000のペーパーでゴミ・ブツ除去時のペーパー目を丁寧に除去する。</li> <li>- エアブローとタックロスでダストを除去する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>- エア圧を下げサンディング部分がやや艶が出る程度にクロマックス®プロベースコートを薄く均一に数回に分けて各コートを広げながらクロス塗装する。*ウェットに塗装し過ぎない。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 艶が消える迄フラッシュさせる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>- タックロスでダストを丁寧に除去した後、クリアコート塗装。</li> </ul>

##### ベースコート乾燥後の修正 / モトリング(ムラ)・ホカシ部

	<ul style="list-style-type: none"> <li>- タックロスでダストを除去した後、エア圧を下げたクロマックス®プロベースコートを薄く均一に塗装</li> <li>- エア圧: 0.8-1.0バール、口径: 1.2-1.4</li> <li>- ガン距離: 20-30cm、パターン重ね: 50%</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>- コート間フラッシュオフ: なし</li> <li>- 最終フラッシュ: 完全に艶が消える迄</li> </ul>
	<p><b>注意事項:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- ドライコートにしない</li> <li>- パネル下部から上部に塗装</li> <li>- トリガーは常に握った状態で塗装(ホカシ部の修正は弧を描くように)</li> <li>- 必要以上に修正を行わない(クリアコートの艶引けの原因となる)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>- タックロスでダストを丁寧に除去した後、ベースコートの艶が完全に消えた後、クリアコート塗装</li> </ul>

「上記データは、本書発行日現在の弊社の知識及び経験に基づき弊社の製品とその使用方法に関する情報を提供するもので、特定の性質、品質仕様、具体的な使用目的に関する適正、又は塗装仕上がり具合を保証するものではありません。更に、上記データは指定された材料にのみ該当するものであり、他の材料又はプロセスと組み合わせて使用する場合にはこの限りではありません。尚、実際に塗装をする際には、その塗装時の環境等の様々な要因が塗装仕上がりに影響を与えますので、使用目的毎に必ず事前に試験塗装等を行い、適切な使用方法につき確認を行ってくださいようお願い致します。弊社においては、弊社製品を用いた塗装結果について一切の責任を負いかねます。」

クロマックス®プロ ベースコート ベースコート塗装後の修正-1